

# 夕張市地域公共交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

夕張市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、東西約25キロ、南北約35キロ、面積約760平方キロメートル、人口約6,500名の街であり、面積の約9割を森林が占めている。

夕張市内を運行する路線バスは、当市の人口減少を主因と思われる利用者数減、それとあいまっての運行事業者の乗務員数減もあり、運行路線数、運行本数の減少が続き、各路線とも採算は厳しい状況である。

当市は、産炭を主要産業として発展した経緯等から、川筋に存在した各坑口を中心とし広い市域に集落が点在するという特徴があり、それらを結ぶ路線バスは、「夕張市まちづくりマスタープラン」に都市骨格軸として位置付けた南北軸（紅葉山地区～本町地区）を幹として、南北軸上にない他の地区（郊外地区）とを結ぶ路線が枝となる体系となってきた。

しかしながら、南北軸と郊外地区を結ぶフィーダー部については、路線バスが廃止されたことから、同区間におけるデマンド交通の運行を行い、地域住民の移動ニーズに応え、生活利便性の維持向上を図っていく。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

利用者数(延べ)目標 2,500人(デマンド南部線)、600人(デマンド真谷地線)

## 令和5年度事業概要

### デマンド南部線

- ・運行事業者:丸北ハイヤー有限会社
- ・区間:清水沢～南部
- ・運行日、便数:毎日、7便/日(南部行4便、清水沢行3便)
- ・運賃:200円

### デマンド真谷地線

- ・運行事業者:丸北ハイヤー有限会社
- ・区間:清水沢～真谷地
- ・運行日、便数:毎日、6便/日(真谷地行3便、清水沢行3便)
- ・運賃:200円

## 地域公共交通の現況

### <路線バス・デマンド交通>

- ・夕張鉄道(株)(市内3路線)
- ・北海道中央バス(株)(市内2路線)
- ・デマンド交通(2路線)
- ・デマンド交通市外線(1路線)

【R5.10.1現在】

## 協議会開催状況

令和5年6月27日

- 令和5年度 第1回 夕張市地域公共交通活性化協議会
- ・夕張市地域公共交通計画の策定について
  - ・令和5年度予算案について
  - ・市外線の代替交通について

令和5年8月23日

- 令和5年度 第2回 夕張市地域公共交通活性化協議会
- ・市外線の自家用有償旅客運送(交通空白地有償運送)の実施について

令和5年12月8日

- 令和5年度 第3回 夕張市地域公共交通活性化協議会
- ・令和5年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について(地域内フィーダー系統確保維持計画)
  - ・市外線デマンド(夕張市～栗山町～長沼町)について
  - ・夕張市地域公共交通計画について(地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価含む)

# 令和5年度事業の実施状況

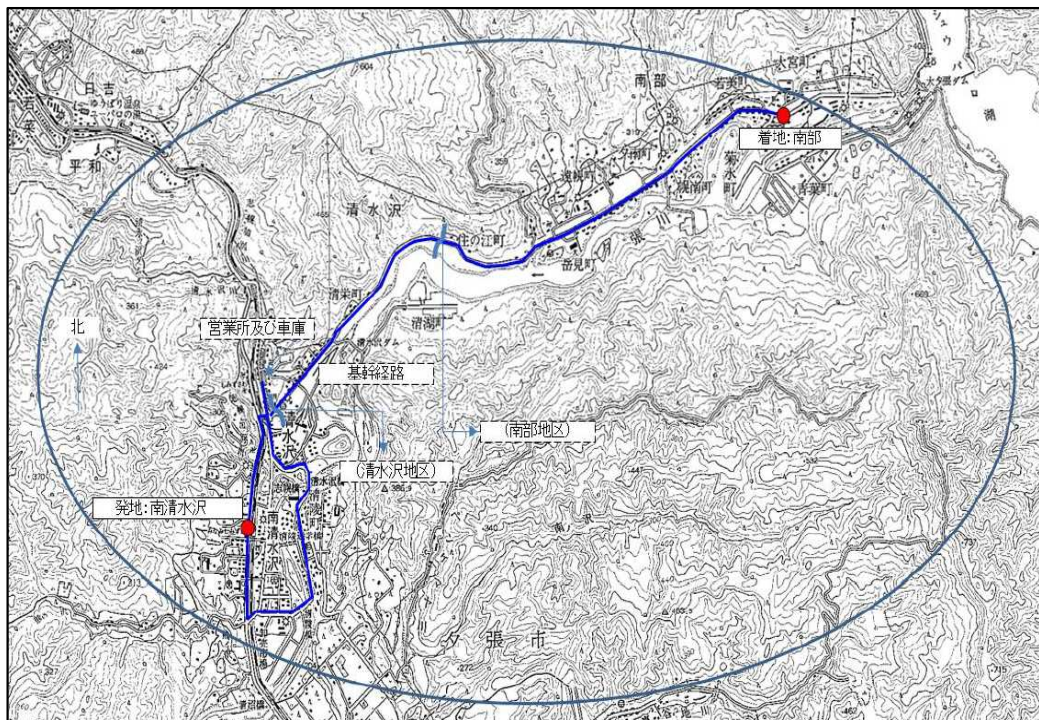
## 1) プロセス、創意工夫

- ・平成29年4月からデマンド南部線本格運行実施 ・平成29年10月1日よりデマンド真谷地線の運行を開始
- ・利用者意見及び利便性を斟酌し、デマンド真谷地線において平成30年4月1日より沼ノ沢地区における乗降を可能とした（清水沢地区～沼ノ沢地区のみの利用は不可）
- ・利用者意見及び利便性を斟酌し、南部・真谷地から清水沢地区への往復利用時における、目的用務後の滞在時間を短縮するべく一部ダイヤ改正を行った
- ・南清水沢地区において拠点複合施設「りすた」が供用開始したことで、デマンドバスの発着場所及び市内外線の路線バスに乗り継ぐ交通結節点となり、利便性の向上に繋がった

## 2) 運行系統

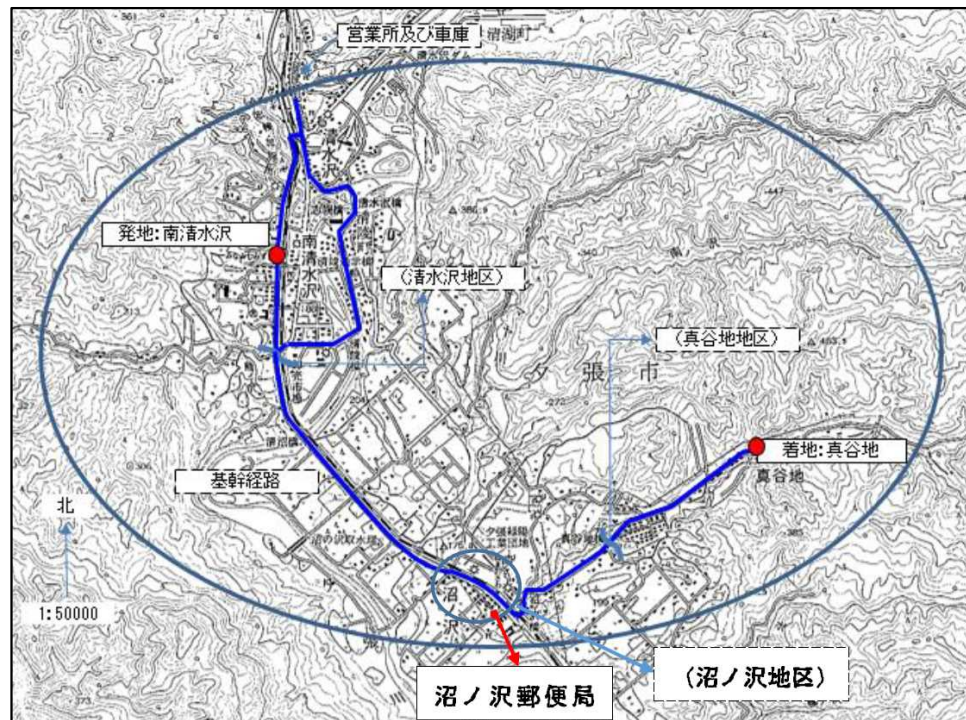
### ○ デマンド南部線

#### 南清水沢～南部



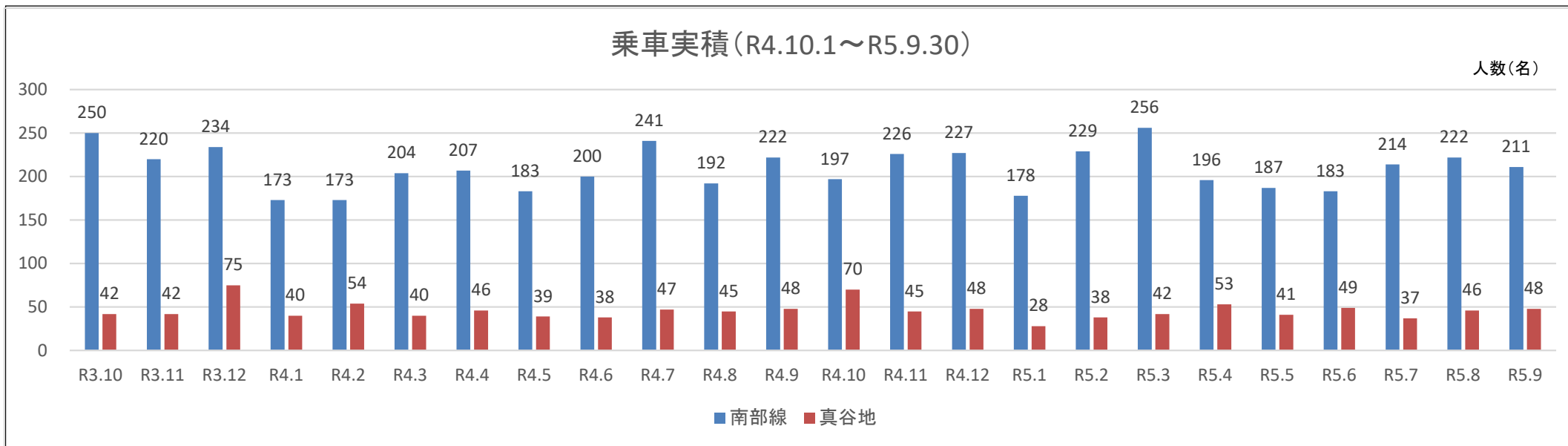
### ○ デマンド真谷地線

#### 南清水沢～真谷地



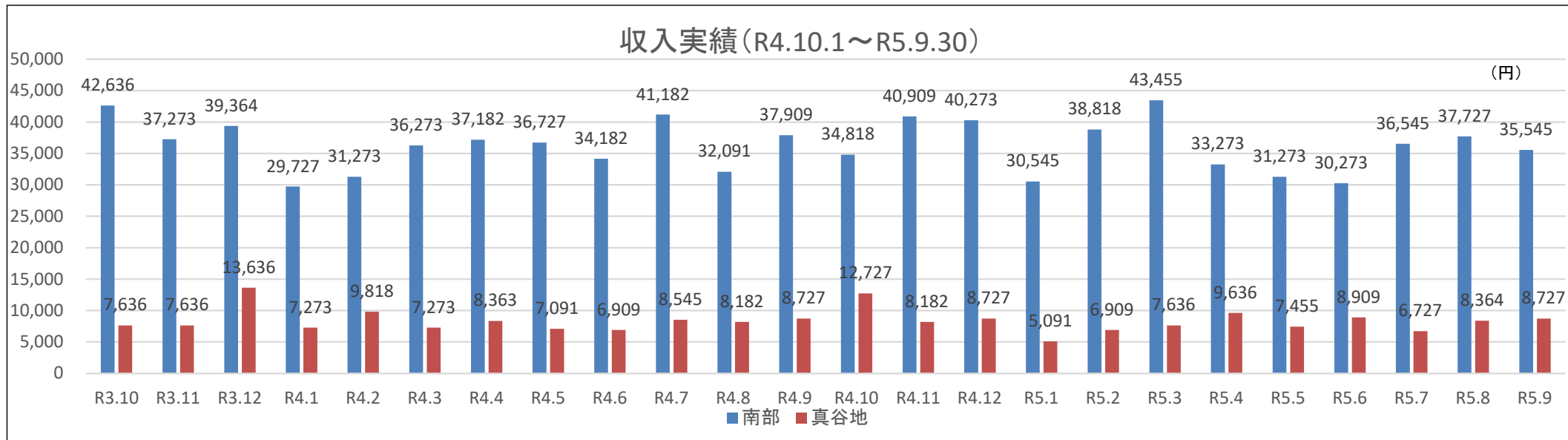
### 3) 利用実績

南部線 R3.10～R4.9 計:2,499名 R4.10～R5.9 計:2,526名  
 真谷地線 R3.10～R4.9 計:556名 R4.10～R5.9 計:545名



### 4) 収入実績

南部線 R3.10～R4.9 計:435,818円 R4.10～R5.9 計:433,454円  
 真谷地線 R3.10～R4.9 計:101,090円 R4.10～R5.9 計:99,091円



## 5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

目標の計画利用者数(延べ)について、実績がデマンド南部線が2,526人、デマンド真谷地線が545人であった。南部線は概ね目標の数値となったが、真谷地線は僅かに目標値を下回った(目標値:南部2,500人、真谷地600人)。

## 7) 事業の今後の改善点

これまでも利用者ニーズを勘案し一部ダイヤ改正を行っているが、今後も日々の利用の中で新たなニーズが生じる可能性があるため、引き続き利用者の声に耳を傾ける必要がある。

なお、令和5年10月1日より、市外線の路線バスが廃止したことから、新たに、市が自家用有償旅客運送(市外線デマンド)を開始したことから、南部・真谷地デマンドとの接続も十分に考慮していく必要がある。

そのために、特にデマンド運行地域において住民との対話の機会を増やすなどして情報収集に努める。

また、デマンド運行事業者はもちろんのこと、路線バス運行事業者とも連携した情報共有を継続して行うことや、令和2年3月に南清水沢地区において供用開始した拠点複合施設「りすた」の交通結節点としての機能を充実させ、さらなる利便性の向上に努める。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・目標を達成できなかった系統があったが、引き続き利用者ニーズの把握や関係機関との連携を進め、利用促進につながる取組が実施されることを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。